

Run for your life.

3組担任

77回生の誰かに言われましたが、「大人は自由でいい」です。

夏。夢高祭の鉄板の前が涼しかったと思えるくらいの暑さですね。夏と言えば…青空…でっかい雲…セミの声…ひと夏の冒険…。皆さん山や川、海、母屋や納屋の屋根で冒険したことあるでしょう。僕も子供のころ冒険は人並みに好きでしたし、それが岩や雪で遊ぶことにつながった…かもしれません。部活もない今年の夏、皆さんはどんな冒険をしますか？

自分にとって最近の冒険はウルトラマラソン完走。2023年9月に京都府で開催「丹後100kmウルトラマラソン」。今は走ることくらいしか「楽しい！」ことがない私ですが、100kmへの挑戦は冒険でした。

できるかな、不安だな。初挑戦の2022年は、36℃という気温と、足の痛さで72kmリタイヤ。翌年8月の練習で40km走ったら熱中症で救急搬送。看護師さんに「こんな暑い中なんでそんなに走るの…」とあきれられました。すいませんでした。

でも、リタイヤした2022年のことを思い出します。歩くだけで足首に激痛、高温と急な峠道…頑張れば次の関門クリアできるかも、ここまで来てリタイヤしたくない、でもクリアしたらまだ歩かないとあかん、ああ沿道に座り込んで動かない人もいる…。

そんな状態で歩いているとき、沿道の応援の男性（着ているTシャツには「TANGO 100km」の文字…過去大会のランナーだ）から声援が、

男性「ナイスラン！ナイスラン！」

ぼく「いや、ランじゃないです。ウォークです…（苦笑）」

ヨロヨロ歩くだけで、もう自分が最後尾なのか、追い抜く人もいなくなっていました。で、そのあと、おじさんが言った言葉が忘れられません。

おじさん「何言ってるんだよ、立派なランだよ！」

そんな応援に、準備不足の自分が情けないやら、声援が嬉しいやら、複雑な気持ちで涙ぐみました。こんなことがあったら、リタイヤしたままにはできない。完走しないといけない。

2023年は、山、河、海、ラグーン、砂州を走り抜け、ゴール。その瞬間には、今までの練習、達成感、開放感、寂しさがこみあげ泣いてしまいました。

あるランナーの方が「自分は毎年丹後を走って生まれ変わる。ここから新たに1年を生きなおす。」とおっしゃっていました。ある意味ルーティンワークの毎日からの脱出かも。冒険は現実からの逃避かも。でも生きるためにこそ冒険があるなら、逃避もよい。

100kmは僕にとってまだまだ冒険です。地元の方のお世話になりながら、今年も丹後で生まれ変わらせてもらいたいと思います。

皆さんはこれからどんな冒険をしますか？

※（）内は時間帯を表す→《例》（1）＝1限（放）＝放課後 など

今後の予定

月	日	曜	行事予定
7	22～31		夏季前期補習期間（～30日まで） 図書館開館
	28	日	全統マーク
8	21～29		夏季後期補習期間
	25	日	全統記述模試
9	2	月	大掃除 始業式 共通テスト出願説明会
	7・8	土・日	共通テスト模試
	27	金	体育祭

球技大会

最後の球技大会はあいにくの雨模様で、残念ながら男子は卓球に種目変更となりましたが、男女とも球技大会に懸ける想いは強く、夏の暑さより熱い闘いが繰り広げられました。

結果

男子 卓球

1位 1組 2位 3組 3位 6組

女子 バレーボール

1位 3組 2位 6組 3位 4組



恒例となった表彰式でのパフォーマンスバトル。彼らは、本戦以上にこのバトルに本気だ。表彰状を受け取る時点で、彼らの頭は表彰される嬉しさよりも、このあと何をかましてやろうかという考えでいっぱいだ。その真剣な表情は、まさに戦場に赴く戦士のよう。面構えが違う。

「これが…高校生活最後」

そう心に決めて臨んだ決勝の舞台。

彼女は高く跳んだ。誰よりも高く。

渾身の力で振り切った右手から放たれたスパイクは、鋭く、そして美しい軌道でコートの中を貫いた。気づくとその右手を天に突き上げていた。

彼の素早いスマッシュは、会場内の熱気とまじり、一陣の熱い風となってコートを吹き抜けた。大きな歓声が会場を包み、さらにボルテージを上げていくのだった。

